

かわさき

# 農家だより

発行 川崎市農業振興センター  
〒213-0015  
川崎市高津区梶ヶ谷 2 - 1 - 7  
電話 044-860-2462  
FAX 044-860-2464



## 花の品評会・園芸展覧会植木の部開催される

等々力緑地で開催された花と緑の市民フェア会場において、5月21日（金）から22日（土）の2日間にわたり花の品評会と園芸展覧会植木の部が開催されました。前夜からの台風の影響が心配された今回の品評会でしたが、審査の時間を変更し無事行われました。

**植木** の品評会は、5月21日午前中に審査が繰り上げられ行われましたが、前日からの荒天の影響か長物は少なめで、前年をやや下回る63点の出品となりました。

長物をはじめ苗木類は根巻きの良い物が、また盆栽は作りこんだものが出品され、審査員からは生産者の技術が見える物が多かったとのことでした。



なお、特別賞は次のとおりです。

神奈川県知事賞 萩原完二（さつき・盆栽鉢物）  
川崎市長賞 鈴木孝司（ムーングロー・長物）  
JA セレサ川崎組合長賞 石川柳二（錦松・盆栽鉢物）  
神奈川県植木連会長賞 内田一夫（つげ玉・玉物）  
全農神奈川県本部長賞 関谷芳夫（けやき・盆栽鉢物）  
川崎市農業委員会会長賞 大久保秀夫（椿・長物）

【敬称略】

**花** の品評会には、カンパニュラをはじめ204点の多様な花が出品されました。

審査員からは栽培技術のレベルが高く、品質の良いものが出品されていたとのことでした。

なお、特別賞は次のとおりです。

神奈川県知事賞 都倉敏信（カンパニュラ・切花）  
川崎市長賞 秋山智男（ペチュニア・鉢物）  
JA セレサ川崎組合長賞 中村成彦（ひまわり・切花）  
神奈川県園芸協会会長賞 都倉敏信（カンパニュラ・切花）  
神奈川県花き連会長賞 吉垣和也（スモークツリー・枝物）  
川崎花卉園芸株式会社社長賞 吉田恵一（小菊・切花）

【敬称略】



翌22日11時30分から行われた即売は、開始時間前から長蛇の行列が出来、あっという間に売り切れてしまう盛況振りでした。

【問い合わせ先 農業振興課営農係 860-2462】

## ～人と環境に優しい～ 環境保全型農業への取り組み

川崎市では、平成 12 年度から環境保全型農業の事業を推進しています。ここでは、減農薬を目標にした、これまでの取り組みについてご紹介します。

**ナシ**の生産現場では、「コンフューザーN」という性フェロモン剤を利用して、殺虫剤の散布回数を減らす取り組みを実施しています。

・**コンフューザーN** ナシの果実や新梢<sup>しんしょう</sup>に被害を与えるシンクイムシやハマキムシのメスが、オスを引き寄せるために出すニオイを人工的に合成したもので、環境にもやさしい資材です。これをナシ園に設置することにより、オスがメスの位置を特定できなくなり、交尾ができず、次の子孫の数が減っていくという仕組みを利用しています。



ナシ園に設置したコンフューザーN (中央やや右)

・**取り組み** 平成 13 年度に高津区、宮前区を中心にはじまり、平成 15 年度からは、市内全域で 5 a 以上の栽培をするナシ生産者の 95%以上が取り組んでいます。

・**成果** 収穫後にアンケート調査を実施したところ、回答者のうち約 35%の方が、少なくとも 1 回以上殺虫剤の散布回数を減らしたことが判りました。

・**今後** 全ての生産者がナシヒメシンクイの被害を抑えられたわけではなく、付近にバラ科の樹木があるなど、周辺環境の影響により、結果は様々でした。

害虫が発生する場所はナシ園の中だけとは限らないので、フェロモン剤を使った減農薬栽培が広く浸透するには、継続していく必要があります。

【問い合わせ先 フルーツパーク 945-0153】

**キャベツ**の生産現場では、「コナガコン」と「フェロディン SL」という二つのフェロモン剤を使って、減農薬の実証栽培を行っています。

・**コナガコンとフェロディン SL** コナガコンはコナガ、フェロディン SL はハスモンヨトウという害虫を対象にしています。どちらもメスがオスをおびき寄せる性質を利用していますが、コナガコンはオスがメスを特定できなくなる「交信攪乱」という方法、フェロディン SL はオスを捕まえてしまう「大量誘殺」という方法を利用しています。

・**取り組み** 平成 13 年度から高津区久末地区の生産者の協力を得て、減農薬栽培についての実証栽培試験を継続して行っています。

・**成果** コナガコン、フェロディン SL ともフェロモン剤としての効果があることが確認されました。コナガ、ハスモンヨトウの密度が年々減ってきているという声も聞こえており、農薬の散布回数を減らすことができた生産者もいます。



キャベツ畑に設置したフェロモントラップ

・**今後** フェロディン SL は害虫のオスを捕まえてしまうだけではなく、発生状況を捉えることにも応用が可能なので、具体的な減農薬の方法について、検討を続けていく予定です。

【問い合わせ先 緑化センター 911-2177】

# 体験型農園を始めませんか



川崎市では、市民が農業を体験できる場を提供するとともに、市民の農業に対する理解を深め、農地の保全・活用を図ることを目的として、体験型農園を開設する農家に対し、その開設にかかる費用の一部を補助しています。また、平成 15 年度に体験型農園の開設者（農業者）のための運営上の手順、配慮する点、開設するメリット等について記載した**体験型農園運営マニュアル**を作成しました。農業振興課にて配布しておりますので、ぜひご利用ください。

**体験型** 農園は、農業者自らが開設し、利用者は利用料を払って、開設者の指示に従い植付けから収穫までを行う農園利用方式による農園で次の要件を備えたものをいいます。

- (1) 農園での耕作の事業そのものは開設者自らがやっていること
- (2) 利用者は農園での農作業を行うために農園に入園するものであること
- (3) 農園の作付け計画等の内容を開設者が定めていること
- (4) 農園における耕作のための費用を開設者自らが負担していること
- (5) 少なくとも複数の利用者を対象としたものであること
- (6) レクリエーション目的であること
- (7) 利用者が年に複数回数農作業を行うものであること



マルチングの作業を行う利用者



クワの使い方を体験する利用者

## < 補助対象となる体験型農園の要件 >

補助を受けるには、体験型農園の要件を満たしているほか次の要件が必要です。

- (1) 農園が市街化調整区域又は生産緑地地区内にあること。
- (2) 農園の面積が 10a 以上であること。
- (3) 開設期間が 10 年以上であること。
- (4) 農具舎等の設備を具備すること。

## < 補助の内容 >

体験型農園に必要な施設設置に要する費用に対し予算の範囲内で 50% 以内の補助をします。

## < 補助対象施設 >

農具舎、休憩所、トイレ、水道、看板など

【問い合わせ先 農業振興課振興係

860-2462】

# 農(みのり)の寺子屋

## ～援農ボランティア育成事業～

**農** (みのり)の寺子屋は、援農ボランティア育成のためのモデル事業として、麻生区内において平成 15 年度に開講しました。

農と触れ合いたいという市民のニーズを活用しながら、地域農業に貢献できるボランティアの育成を目指して、農家による指導で農作業に必要な知識や技術を修得することを目的としています。

馴染み易い名前であること、農業指導を行う基礎教育システムであることをイメージして「農(みのり)の寺子屋」という名前を付けました。

この事業は、麻生区黒川地区の遊休農地 2 箇所(約 1500 m<sup>2</sup>)を実習農地として利用し、地元農業者で構成する黒川観光農業振興会に運営を委託して行っているもので、研修期間は原則的に 3 年間です。

研修期間中は同会会員の指導により月 2～3 回の定例農作業、竹林管理及び遊休農地解消作業等の実践講習を行うとともに、座学や意見交換会も実施しています。平成 16 年 5 月現在、24 名が講習を受けており、班分けや日誌の活用等で作業の円滑化を図っています。



作業写真(ネギの植え付け指導)

また、研修期間中は、定例作業以外にも班別に週 3 回程度、交代で除草や見回り等の農地管理作業を行っています。こうして農作業の実践回数を増やすとともに、自ら勉強し、考えながら農作業を行うことで、必要な知識や技術を身につけるシステムとなっています。

この事業を通じて、農業の知識を持った援農ボランティアとして活動できる人材を育成し、将来的には人手不足で困っている農家でボランティア・パートタイマーとして活動してもらうことを目指しています。また、今後は、援農ボランティアの受入希望農家に対応するため、農作業の支援ができる農作業受託組織の立ち上げを予定しています。

【問い合わせ先 農地課保全係 860-2461】

### 土に力、豊作のまず手始めは土作り

#### 緑肥作物普及活動の御案内

農業者の皆さん、畑の土は元気ですか？ 連作障害に悩まされていませんか？ 経営面積が小さい本市では有効な輪作体系が難しいのが実情です。また、高齢世帯では自宅から遠い畑は管理がおろそかになりがちなもの。一度荒らした畑を優良な畑に戻すのは大変困難を伴います。

そこで、おすすめしたいのは緑肥作物の活用で、雑草の発生を抑え、根の耕土への侵入で畑を耕し、



緑肥 エンバクの穂

すき込むことで有機物を安価に投入できます。

農業振興センター農地課では緑肥作物の普及のため、展示栽培に御協力いただける農業者の方を募集しております。支給する草種はネマキング、とちゆたか、ヘアリーベッチ まめ助(雪印種苗)です。

詳しくはチラシ又は

<http://www.geocities.jp/yukyunocho/index.htm> から「緑肥作物展示栽培の募集について」を御覧ください。

【問い合わせ先 農地課審査係 860-2461

担当:山崎・米川・川口】